

第六次 榛葉町勢振興計画

笑顔とチャレンジがあふれるまち ならは

～「ふるさと」の良さを活かした、しなやかなまちづくり～

概要版



令和3年3月

榛 葉 町



ごあいさつ

楢葉町長

松本 幸英

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から、10年が経過しました。この間、「楢葉町復興計画」を策定して災害からの復興と新たなまちづくりを進めてきた結果、復旧・復興施策の多くが実現し、町民の約6割が町に戻っての生活を再開するなど、町内には新たな活気と賑わいが生まれつつあります。

一方、震災前からの懸念事項であった人口減と高齢化は一層拍車がかかり、町の産業構造や財政状況も大きな転換期を迎えています。今後

とも、引き続き復興対策に取り組むとともに、地球規模の環境問題など大きな社会経済環境の変化へも柔軟に対応していくことが必要です。

このような状況を踏まえ、このたび、将来のまちづくりを展望した総合的な町政運営の指針として「第六次楢葉町勢振興計画」を策定しました。この計画は、まちの将来像として「笑顔とチャレンジがあふれるまちならは」を掲げて、今後、当町が進むべき道筋を示しています。

本計画の推進にあたっては、町内外への積極的な情報発信を行うとともに、行政と町民等が一体となり、これまでの人のつながりを活力にして、新しいチャレンジが次々と生まれるまちづくりを目指していきたいと考えております。今後とも、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和3年3月

まちづくりの基本理念

震災から現在に至るまで、本町では、檜葉町復興計画に基づき、震災によって受けた影響を解消すべく、さまざまな施策・事業等に取り組んできました。今後10年間は、これらのさまざまな取り組みを礎として、まちのさらなる復興を目指していくこととなります。このため、復興計画の基本理念を継承しつつも、現在、まちが置かれている状況を踏まえ、まちづくりの基本理念を次のように設定しました。

これらの基本理念は、本計画の根幹をなし、今後、本計画に基づいて各種施策・事業等を進めていく上で常に立ち返るべき、基本的な考え方です。

基本理念1 次世代につなげるまちづくり

持続可能なまちづくりを進め、子どもたちの未来につなげる

- 多様な主体が連携・交流して出会いとつながりを生み出す。
- 新しい産業の創出・誘致、育成に向けた取り組みを強力に進める。
- ＩＣＴ（情報通信技術）を積極的に活用して、まちづくりの各種課題の解決に取り組む。
- 脱炭素化に取り組み、持続可能で活力あふれる地域の実現を目指す。

基本理念2 町民の連携と協働

一人ひとりがそれぞれの役割を担い、一体となってまちづくりを進める

- 町民一人ひとりが、それぞれの力を活かして、まちづくりに取り組む。
- 互いの助け合い・支え合いを通じて、地域共生社会の実現につなげる。

基本理念3 安全・安心な生活の確立

災害に的確に備え、誰もが安心して安全に暮らせるまちにする

- 災害の教訓を忘れず、より安全なまちづくりに活かしていく。
- 備えを着実に進め、自助・共助・公助により、危機を乗り越える強靭さを培う。

基本理念4 広く外に開かれたまちの創造

外からの新しい風を大切にして、変化を生み出す

- 在住者だけでなく、町や町民と「ご縁」があるさまざまな人材をまちづくりの担い手として幅広く求める。
- 町民の「人柄の良さ」を活かし、国内外の人を広く受け入れる風土をつくる。
- さまざまなジャンルでチャレンジする人を積極的に受け入れ、応援する。

基本構想

今後10年間、本計画に基づくまちづくりを推進することで
本町が目指すまちの将来像は、次のとおりです。

まちの将来像
(目指す姿)

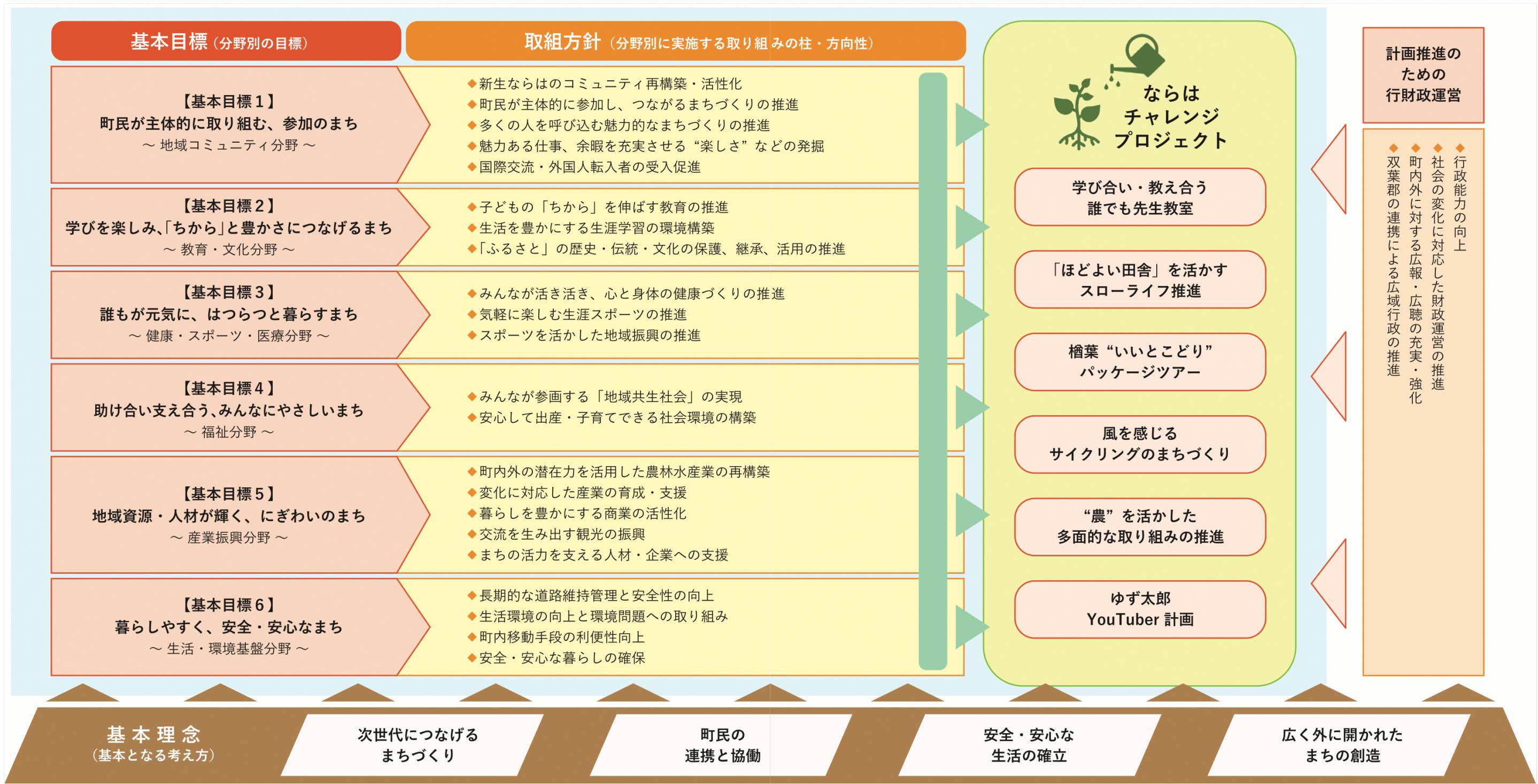
笑顔とチャレンジがあふれるまちならは～「ふるさと」の良さを活かした、しなやかなまちづくり～

●笑顔とチャレンジがあふれるまち

誰もが健康で生きがいのある暮らしを営み、活力あるチャレンジをしている姿を意味します。一人ひとりがこころ豊かに毎日を送ることができるよう、SDGs（持続可能な開発目標）の基本理念に基づき、誰もが安心してこの地に暮らし続けることのできる社会の実現を目指すとともに、さまざまな人の“つながり”を活力にして、新しい挑戦が次々と生まれるまちを目指します。

●「ふるさと」の良さを活かした、しなやかなまちづくり

本町は、美しく豊かな自然に恵まれ、また全国有数のスポーツ施設などがあります。このように、すでにある本町の「良さ」は変えずに活かす一方で、新しいものごと・考え方を受け入れて柔軟に対応していく「しなやかさ」も大切にして、自由な発想をもとに、しなやかに成長していくまちを目指します。



分野別基本計画

6つの分野別的基本目標及び基本目標を達成するための取組方針毎に、主要施策と主な事業例及び取組の進捗を管理するためのKPI（重要業績評価指標）を定めたものです。

（※事業例及びKPIについては本編をご参照ください）

基本目標 1

地域コミュニティ分野

町民が主体的に取り組む、参加のまち



東日本大震災から10年が経過し、施設の復旧・整備など、ハード面の復興は概ね目途が立っています。

今後は、若い世代の呼び込みや新たな居住者等とのコミュニティづくりといった、ソフト面のまちづくり、移住や定住促進に力を注いでいくことが必要です。

取組方針	主要施策
[1-1] 新生ならはのコミュニティ再構築・活性化	①町民同士のつながり再編・構築と活性化 ②町外在住町民等とのつながり・交流
[1-2] 町民が主体的に参加し、つながるまちづくりの推進	①町民等主体のまちづくり活動への支援体制構築
[1-3] 多くの人を呼び込む魅力的なまちづくりの推進	①移住・定住促進
[1-4] 魅力ある仕事、余暇を充実させる“楽しさ”などの発掘	①余暇を充実させる“楽しさ”などの発掘と発信 ②若者を呼び込む魅力的な会社・仕事の創出 ③ならはファン（交流人口・関係人口）の増加
[1-5] 国際交流・外国人転入者の受入促進	①外国人の受入環境の整備 ②外国人就労者の受け入れ

基本目標 2

教育・文化分野

学びを楽しみ、「ちから」と豊かさにつなげるまち



町内で教育を再開したこども園と小・中学校では、英語教育、キャリア教育など、特色ある教育を進めています。

今後とも、これまで推進してきた「魅力ある教育」をさらに推し進めるとともに、生涯学習の環境構築、歴史・伝統・文化の保護、継承、活用を推進し、幅広い世代が学ぶことを楽しみ、生きていくための「ちから」を身に付け、生活の豊かさを享受しながら暮らしていくまちを目指します。

取組方針	主要施策
[2-1] 子どもの「ちから」を伸ばす教育の推進	①こども園・小学校・中学校の一体的・連続的な教育 ②将来を切り拓く力を身に付ける、特色ある教育の推進 ③地域や大学などと連携した地域学校協働活動事業の推進 ④魅力ある教育の情報発信
[2-2] 生活を豊かにする生涯学習の環境構築	①新たな生涯学習拠点の構築 ②生涯学習活動の活性化
[2-3] 「ふるさと」の歴史・伝統・文化の保護、継承、活用の推進	①歴史・伝統・文化の保護、継承 ②歴史・文化の継承活動推進・人材育成 ③東日本大震災・原発災害の経験継承

基本目標

3

健康・スポーツ・医療分野

誰もが元気に、はつらつと暮らすまち



町内や近隣町で医療機関の再開・開設が進むなど、医療体制が再構築されてきました。また、Jヴィレッジ再開、ならはスカイアリーナ建設など、スポーツ施設も従来以上に充実しています。

町民一人当たりの医療費や生活習慣病患者は増加傾向にあり、高齢化も進んでいることから、町民の健康寿命を延ばすため、健康づくりを推進します。また、充実したスポーツ環境を活かして町外から人を呼び込み、地域振興につなげます。

取組方針	主要施策
[3-1] みんなが活き活き、心と身体の健康づくりの推進	①健康維持・健康管理の環境整備 ②日常生活における健康の維持・増進 ③心の健康対策の推進 ④放射線健康管理の推進 ⑤感染症予防対策の着実な継続実施
[3-2] 気軽に楽しむ生涯スポーツの推進	①重点スポーツ種目「広義のサッカー」の普及拡大 ②生涯スポーツの推進
[3-3] スポーツを活かした地域振興の推進	①スポーツコミッショナによる地域振興 ②スポーツツーリズムの推進による地域振興

基本目標

4

福祉分野

助け合い支え合う、みんなにやさしいまち



高齢化率の上昇、単身世帯の増加に加え、長期に及んだ町外避難の影響もあって、介護等が必要な人も増加傾向にあります。一方で、そうした方々を支える福祉ボランティアなどの担い手が不足しています。

今後、全世代型の地域包括ケアシステムを構築し、「地域共生社会」の実現を目指します。その中では、男女共同参画、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）にも取り組んでいきます。

また、さまざまな子育て支援などを通じて、町民が安心して出産・子育てすることのできる環境づくりも推進します。

取組方針	主要施策
[4-1] みんなが参画する「地域共生社会」の実現	①全世代型の地域包括ケアシステムの構築 ②ボランティア等による地域密着型助け合い体制の構築 ③男女共同参画の推進 ④人権への理解促進、権利擁護の支援
[4-2] 安心して出産・子育てできる社会環境の構築	①子育て支援拠点・子育て世代の交流促進 ②保育・教育環境の充実

分野別基本計画

基本目標

5

産業振興分野

地域資源・人材が輝く、にぎわいのまち



これまで、農地の土壤除染や檜葉南工業団地の再生、ここなら笑店街の開業など、早期の産業活動の再開に向けて各種の復旧・復興関連事業に取り組んできました。

今後の地域経済の活性化に向け、これまでに復旧した産業基盤のほか、地域の資源や人材を最大限に活用し、町外からの資金・人材の獲得、町内産業への支援を進めていくことで、にぎわいのあふれるまちを目指します。

取組方針	主要施策
[5-1] 町内外の潜在力を活用した農林水産業の再構築	①農林業等の振興 ②スマート農業の推進など、新たな取り組みの展開 ③木戸川の地域資源の回復
[5-2] 変化に対応した産業の育成・支援	①既存産業を中心とした活性化支援
[5-3] 暮らしを豊かにする商業の活性化	①事業をしやすい環境づくり
[5-4] 交流を生み出す観光の振興	①自然や農業、スポーツ等の資源を活用・連携した交流促進
[5-5] まちの活力を支える人材・企業への支援	①雇用促進・人材獲得や勤労者福祉の充実

基本目標

6

生活・環境基盤分野

暮らしやすく、安全・安心なまち



Jヴィレッジ駅が開業し、総合グラウンドやならはスカイアリーナ、天神岬スポーツ公園がJヴィレッジなどと連携して、町内外の利用者を集め、スポーツや健康づくりの一大拠点となることが期待されます。

美しい檜葉町を未来の子どもたちに残すため、環境にやさしいエネルギーを活用して脱炭素社会の構築に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）の実現、近年激甚化する気象災害や地震・津波に対する防災対策にも積極的に取り組みます。

取組方針	主要施策
[6-1] 長期的な道路維持管理と安全性の向上	①道路の整備及び維持管理 ②通学路の安全確保
[6-2] 生活環境の向上と環境問題への取り組み	①にぎわいづくり ②環境問題への取り組み促進 ③維持可能なライフライン運営
[6-3] 町内移動手段の利便性向上	①「移動が楽しめるまち」の構築 ②鉄道の利便性向上に向けた取り組み
[6-4] 安全・安心な暮らしの確保	①災害に強いまちの実現 ②新型コロナウィルスを始めとする各種感染症への対応 ③交通マナーの向上、防犯対策

ならはチャレンジプロジェクト

今後、町が特に重点的に取り組む
6つのプロジェクトを「ならは
チャレンジプロジェクト」として
設定します。

プロジェクト

1

学び合い・教え合う 誰でも先生教室



まちの子どもたちが健やかに成長する上では、新たな知識を学ぶことの楽しさを実感し、より一層的好奇心・知識欲を育みながら暮らしていくことが大切です。

子どもたちがさまざまな事柄を多くの人々から学ぶ機会を創り出すとともに、単に教わるだけでなく自ら教える機会も設けて、学び合い教え合う環境づくりを推進します。

具体的な取り組み

- ◆ 同学年の子ども同士はもちろん、
学年を超えた子ども同士の教え合い
 - 小学生→こども園児
 - 中学生→小学生
 - 高校生、大学生（帰省中に）→中学生
- ◆ 町内外のさまざまな立場の大人からの学び
 - 町内各文化団体からの学び
 - 多世代交流によるお年寄りからの学び
 - 地元農家・企業等からの地域産業に関する学び
 - 最先端の研究者、企業人など、町外の人々からの学び

- ◆ スポーツ、就職・進学に関する相談など、
子どもの将来を共に考えるメンター制度の導入
- ◆ 本に親しむ多様な環境づくりの推進



プロジェクト

2

「ほどよい田舎」を活かす スローライフ推進



檜葉町は、常磐自動車道や国道6号、JR常磐線など交通の便には恵まれており、また震災後にできた「笑ふるタウンならは」に「ここなら笑店街」がオープンするなど、生活環境の利便性も向上してきました。

まちの豊かな自然、充実したスポーツ施設などを活かした「スローライフ」を推進し、のんびりと「ほどよい田舎」を楽しめるまちとしてPRし、まちの魅力を情報発信していきます。

具体的な取り組み

- ◆ 多様で柔軟な働き方の推進
- ◆ テレワーク向け住宅（インターネット環境、ワークスペース等）の整備推進
- ◆ 「ふるさとテレワーク」の推進
- ◆ 既存公共施設を利用したテレワークセンターの整備

- ◆ 余暇を楽しむスポットの発掘・創造
 - 木戸川・木戸ダムを活用した水上スポーツ、フィッシング等
 - ならはスカイアリーナ等を活用したスポーツ、フィットネス
 - キャンプ場でのグランピング
- ◆ 家庭菜園や副業としての農業の推進



ならばチャレンジプロジェクト |

プロジェクト 3

檜葉 “いいとこどり” パッケージツアー



多くの魅力的な資源を組み合わせたモデルコースを設定し、「いいところ」をふんだんに盛り込んだ“いいとこどり”パッケージツアーを展開します。

新たにさまざまな体験ができる“体験型”の観光コンテンツを創り出し、それを教えるインストラクターなどの人材育成、来訪者に「また来よう」と思っていただける仕組みづくりに取り組みます。

具体的な取り組み

- ◆ 魅力的な“体験型”観光コンテンツの発掘・創造、インストラクター等の人材育成
 - 木戸川・木戸ダムを活用した水上スポーツ、フィッシング等
 - ならばスカイアリーナ等を活用したスポーツ、フィットネス
 - キャンプ場でのグランピング
 - 海水浴場、サーフィン
 - 観光としての農業



- ◆ “まちを知り尽くす”モデルコースの設定
 - 歩道付きウォーキングロードの整備
 - 浜街道等を活用したサイクリングロードの整備
- ◆ 繰り返し訪れたくなる“仕掛け”的設定
 - コース沿道の町民が「必ず手を振る」おもてなし
 - 宿泊回数券、ツアーポイント制度
 - チェックポイントを設定したスタンプラリー制
 - ふるさと納税返礼品としてのツアー

プロジェクト 4

風を感じるサイクリングの まちづくり



檜葉町内はもとより近隣市町村と連携してサイクリングコースを設定・整備するなど、サイクリングをより楽しむことのできるコースづくりに取り組みます。

また、シェアサイクルの導入など、気軽に自転車を使うことのできる環境づくりや、サイクリングが楽しめるイベントなどの開催を通じて、サイクリングが楽しめるまちとしてPRしていきます。

具体的な取り組み

- ◆ サイクリングコースの設定・整備
 - 近隣市町村と連携したサイクリングコースの設定・整備
 - 子ども向けストライダー・BMXコースの設置
- ◆ サイクリングしやすい環境づくり
 - サイクリングターミナルの機能充実（レンタサイクル、シェアサイクルの導入等）
 - 町内各所への簡易自転車置き場配置
 - サイクルトレイン（自転車をそのまま持ち込める列車）の運行誘致

- ◆ サイクリングが楽しめるイベントの開催
 - オリエンテーリングコースを活用したサイクル・オリエンテーション
 - サイクル・ロゲイニング
 - ツール・ド・浜通り
- ◆ サイクリングが楽しめるまちとしてのPR
 - サイクリング関連団体との連携による広報媒体の活用



プロジェクト

5

“農”を活かした 多面的な取り組みの推進



シゴト（生業）としての農業だけではない、“農”を推進し、その良さを幅広い分野で活かしていきます。農業体験のできる農園や観光農園、木戸川のサケ釣り、アユ釣りなど、“農”を活かした観光コンテンツづくりを目指します。また、農業体験などを通じた食育、地元の特産品を使った商品開発を行うキャリア教育など、“農”を活かした教育も展開します。さらに、福祉分野と“農”との連携、生きがいや健康づくりの“農”的推進に取り組みます。

具体的な取り組み

- ◆ “農”を活かした観光コンテンツの開発・推進
 - ・農業体験農園・観光農園、農家民宿、農家レストラン、農産物オーナー制度など
 - ・木戸川のサケ一本釣り、アユ等の渓流釣り
- ◆ “農”を活かした教育の展開
 - ・農業体験などを通じた食育
 - ・地元産品を使った商品開発などによるキャリア教育
- ◆ 福祉分野と“農”的連携
 - ・福祉施設における“農”関連プログラムの導入
 - ・農業法人と障がい者施設等の連携推進

- ◆ 生きがい・健康づくりとしての“農”的推進
 - ・健康づくり農作業プログラムの開発・推進
 - ・町民農園の整備等による家庭菜園の推進
- ◆ 家庭菜園等における農産物の販路等構築（マルシェ、道の駅など）



プロジェクト

6

ゆず太郎 YouTuber 計画



「ならはチャレンジプロジェクト」の各プロジェクトを連携させて、全体として移住・定住の促進につなげるため、まちのマスコットキャラクター「ゆず太郎」に YouTuber として活躍してもらいます。

YouTube で配信する動画は、子どもたちが ICT（情報通信技術）教育の一環で作成するなど、多くの方々に関わっていただきながら、ゆず太郎を YouTuber として育て、その姿を発信することで、檜葉町の魅力と元気を発信します。

具体的な取り組み

- ◆ さまざまな体験をする「ゆず太郎」の姿を YouTube で配信
- ◆ ならはチャレンジプロジェクトによるさまざまな活動
 - ・ゆず太郎が教える教室
 - ・スローライフを楽しむゆず太郎
 - ・パッケージツアーを楽しむゆず太郎
 - ・サイクリングするゆず太郎
 - ・家庭菜園で収穫するゆず太郎 など
- ◆ 著名スポーツ選手と一緒にプレイ
- ◆ 農家さんとともにサツマイモ・米の栽培・収穫 など
- ◆ 動画作成も、さまざまな人が参画
 - ・子どもの ICT（情報通信技術）教育の一環で YouTube 動画作成
 - ・著名人がゆず太郎になる
 - ・農業体験に来た農大生・農業高校生が動画制作



楢葉町民憲章

(昭和 51 年 7 月 29 日制定)

わたしたちは、美しい自然環境につつまれた郷土楢葉の町民です。
わたしたちは、この郷土に住む自覚と誇りをもち先人の心を大きく広げ
お互いに人格を認め合い、心を合わせ品性豊かな町民になるため、
ここに町民憲章を定めます。

- 一、心とからだをきたえ、楽しいまちにします
- 一、教養を深め、きまりを守り、明るいまちにします
- 一、仕事に誇りをもち、力を合わせ、豊かなまちにします
- 一、自然を愛し、心のふれ合う平和なまちにします
- 一、あしたに希望をもち、若さに満ちたまちにします



町章

この町章は、楢葉（NARAH）の頭文字の N と 2 枚の楳の葉を図案化したもので、2 枚の葉の円は「平和と団結」さらに共存共栄を表し、中心の円は無限に発展する生命源の象徴です。



町の花：やまゆり



町の木：杉



町の鳥：うぐいす

第六次 楢葉町勢振興計画

概要版

令和 3 年 3 月 発行

編集・発行／楢葉町 復興推進課

福島県双葉郡楢葉町大字北田字鐘突堂 5-6

TEL : 0240-25-2111 (代)